

2019(令和元)年度第1回伊賀市地域公共交通活性化再生協議会  
青山地域部会 議事概要

■開催日時 2019(令和元)年11月19日(火)  
午後3時30分～午後4時15分

■開催場所 青山支所2階 会議室

■出席者 (敬称略)

【委員】

山本 義明(矢持住民自治協議会会長)、小竹 紀忠(博要住民自治協議会会長)、福田 典博(高尾住民自治協議会)、坂本 安司(上津地区住民自治協議会会長)、柴田 正道(桐ヶ丘地区住民自治協議会会長)、安本 秀男(阿保地区住民自治協議会会長)

【事務局】

交通政策課 課長 福岡 秀明、副参事 吉岡 徹也、  
主幹 坂森 莊平、主査 吉福 将徳  
青山支所 支所長 澤田 之伸 副参事 馬場 千智  
係員 中林 謙太

■傍聴者 0人

■会議概要

1. 開会

澤田支所長 挨拶

2. 部会長、副部会長の互選について

(互選結果・敬称略)

部会長 坂本 安司(上津地区住民自治協議会会長)

副部会長 山本 義明(矢持住民自治協議会会長)

3. 協議事項

(1) 行政バスへの回数券及び定期券の導入について

事務局から資料1に基づき説明

【質疑応答】

なし

【承認】

(2) 伊賀市地域公共交通網形成計画に基づく廃止代替バス路線の再編について  
事務局から資料2に基づき説明

【質疑応答】

部委員	青山はよいということか。
事務局	今回の改編は廃止代替バスのため、青山地区に直接の関係はありません。ただ、大きい改編で、他の地区への影響も考えられることから、各地域部会に諮らせていただいています。
部委員	基準を達成していないと廃止になるのか。
事務局	基準は低めの設定となっており、これを達成できていないのが現状です。残り3年運行して、基準を達成しないと廃止になる流れです。 必要であれば地域運行バスを考える等、各地域で考えなければならない時期が来ています。
部委員	人口が減少している中、基準を達成するのは難しいのではないか。
事務局	買い物等、目的を特化したような移動手段を地域で検討したいというお声も各地域をまわる中、いただいています。市としては、交通手段を奪うのではなく、なるべく残すという姿勢で臨んでいます。
部委員	高齢者が増え、免許返納者も増えてくると思うが、料金を安くするといったことを先々考えているか。
事務局	安ければ乗っていただけるというものでもない現状があります。車が無いと生きていけないということを言われる方もみえます。
部委員	行政バスは命綱なので、なんとかして残してほしい。廃止は簡単だが、元に戻すとき厳しいと思う。地域の財産であり、地元にもいなくなるようでは困る。検討する際は、数値にとらわれず地域の実情を見てほしい。

【承認】

#### 4. 報告事項

- ・（仮称）伊賀市地域公共交通網形成計画の策定について

##### 【質疑応答】

部委員	伊賀線は、各駅に停まるが、駅を通過させると早く着くのか。
事務局	時間的には、あまり変わらないと聞いています。
部委員	伊賀線の通学定期が高い。
事務局	伊賀線単独になったので、近鉄時代より高くなっています。割引は7割ほどしています。
部委員	赤字額が大きいならば、廃止しなければいけないのでは。
事務局	乗客1人あたりの市負担額は、150円程度の現状があります。学生さんも大勢利用いただいているので、ご理解いただければと思います。

【終了】